

平成24年度 公益財団法人大阪市博物館協会の事業評価

大阪城天守閣の運営状況（総括） 【シート3】

H23年度を中心とする指定管理期間の自己評価			外部評価 《 委員コメント総括 》
事業区分	重点目標	詳細	
1 資料の収集、保存、活用	収蔵資料の積極的活用	3・4階の文化財展示室では、約2ヶ月ごとに収蔵品をほぼ全点入れ替え、多種多様な収蔵品を来館者にご覧いただくという、指定管理期間よりも前から続いている方針を堅持した。他施設への貸出については、要望に可能な限り応じ、毎年多数の資料を出品することによって施設外における活用普及が図られている。10点以上の大量出品依頼については、企画の趣旨などを確認した上で「特別協力」という形で応じており、平成23年度には、玉村町歴史資料館（群馬県）の企画展に協力し、69点もの所蔵品（戦国時代に現在の玉村町を本拠とした宇津木家伝来の古文書が中心）を貸し出した。	<p>・3、4階の文化財展示室での、約2か月ごとの収蔵品ほぼ全点入れ替えは、多くの実物資料を一般公開するという博物館の重要な機能を果たしており、非常に高く評価できる。またこのことが、リピーターの満足度と集客力を高めている。観光施設だけでも成り立つ好条件に安住することなく、博物館としての姿勢を堅持していることで、集客による財源確保、更なる館の充実へと、プラスの循環を生んでいる。年末年始(12月28日から1月1日)を除き休館日がない中で、これらの展示更新が行われていることに敬意を表したい。また、他館への資料貸し出しが積極的に行われていることも評価でき、今後とも継続してほしい。</p> <p>・収蔵庫の保存環境に経年劣化がないか、恒常的な看視を続けてほしい。</p>
	豊臣時代歴史資料、大阪城関連資料、武器武具参考資料、大阪郷土資料の拡充	「竹虎図屏風」は桃山時代の狩野派の制作になる優品で、大坂城内のようすを彷彿させる参考資料として効果的な活用が大いに期待できる作品。「豊臣氏四奉行連署状」は秀吉の大名統制策や豊臣政権の政務機構を明らかにする貴重な史料。「小西行長注進状」は朝鮮出兵の状況や秀吉の死が政局におよぼした影響などをなまなましく伝える史料。展示効果も、資料的価値も高い文化財を収集することができた。	
2 調査・研究	徳川時代大坂城の調査・研究	指定管理期間よりも前から継続している調査事業を期間中も途切れることなく行い、撮影した冊子文書の翻刻事業も計画通りに進めることができた。これらの取り組みを踏まえた『徳川時代大坂城関係史料集』刊行も同じく毎年継続し、この分野の研究水準の向上に貢献している。24年度も引き続き刊行に向け取り組んでいる。	<p>・観光施設、集客施設として見られがちな博物館であるが、調査研究についても目的を明確にして、意欲的に取り組み、成果をあげていることを高く評価する。資料撮影、翻刻という基礎的な調査事業が継続されており、これらの成果が資料集の形で刊行・公表されている。より多くの人が研究成果を活用できるよう、資料集の存在の周知に努めてほしい(館HPでの内容紹介等)。資料所在地へ出向いての調査も行われており、こうした調査は学芸員のモチベーションを高めるとともに、新しい展示企画のアイデアの源ともなる。今後も積極的に現地調査を行ってほしい。また、大阪城の研究も含め、大阪を軸にした史観の構築、もうひとつの日本史、というような視点から調査研究を展開してはどうかという意見もある。なお、『大阪城天守閣紀要』への研究成果の掲載・公表は評価できるが、館HPからは館紀要の存在自体を知ることができず、公開性、利便性の観点からは残念である。研究機関としての性格を積極的にアピールしてほしい。</p>
	豊臣時代資料の調査・研究	23年度は大坂の陣で豊臣方として活躍した後藤又兵衛の関連資料を中心として、福岡県内において調査を行った。行橋市歴史資料館では後藤又兵衛所用と伝える槍、同市内の西福寺では又兵衛所用と伝える膳を調査。朝鮮出兵のさい肥前名護屋城への途次に家康が逗留したと伝える北九州市の香徳寺では徳川家康画像を調査。今後の展示にも活用しうる文化財を調査できた。	
	豊臣時代、大阪城、郷土史等に関する研究成果の発表	学芸員が執筆した研究ノート「江戸時代大坂城周辺の武家地について」は、江戸初期における大坂城周辺の武家地の変遷を職制と関連づけながら追究した基礎研究。そのほか、『大阪城天守閣紀要』においては新規に当館の所蔵となった資料について、調査および研究の成果をふまえて紹介。また「豊臣時代資料・史跡調査」および「徳川時代大坂城関係資料調査」の成果もここで発表している。	
3 展示(常設展示、特別展)、来館者サービス	調査研究の成果を来館者に還元	日常の調査研究の成果を広く来館者に還元する場として、自主企画の特別展・テーマ展を企画している。23年度の特別展「天守閣復興」は昭和6年の大阪城天守閣復興にいたる経過と、その後の天守閣の歩みを紹介。関連シンポジウムともあわせて、大阪城天守閣の復興を近現代史のなかに位置づけるとともに、その意義を訴えた。テーマ展「世情」では収蔵する風俗図屏風をまとめて紹介した。	<p>・特別展「天守閣復興」(23年度)では、80年の天守閣の歴史が多彩な資料で紹介され、資料性の高い図録も刊行されており、日頃の調査・研究の成果が来館者及び後世の利用者に公開・継承されている。またテーマ展では、切り口を変えて風俗図屏風を取り上げることで、多様な関心を引き出す、魅力的な展覧会構成が行われている。調査研究成果を自主企画の特別展、テーマ展として企画することに成功している館は決して多くない。大阪城天守閣の場合には、展覧会のスタイルを確立し、ストーリー性のある展覧会にすることに成功している。</p> <p>・特別展、常設展ともに十分な活動がなされており、是非このまま継続してほしい。戦国・豊臣時代のテーマを多角的に取り上げることで、コアファンの期待に応え、かつ目新しい資料を展示することで、マンネリ化を防ぐ等、よく工夫されている。ネーミングのうまさ、各種の資料の使い方の巧みさも、高く評価できる。次回の展示テーマ(仮称でもよい)をHPに掲載してほしい。</p> <p>・外国人の観客が多い施設であり、外国人向けのサービスが必要で、館が行った努力が生かされる環境下にある。外国人来館者対応の音声ガイドを用意し、今後もコンテンツを増やす計画があることを評価する。外国語表記の図録や簡易な小冊子等の刊行も視野に入れつつ、今後も、継続的に努力してほしい。</p>
	常設展の充実	23年度の常設展では「豊臣時代10大事件」「プリンス・豊臣」「豊臣氏の城と城下町」「女たちの戦国」「戦国の勇者たち」「戦いの現場から」「戦国ファッション」「武将たちの生きざま」「秀頼の時代」と、来場者の関心が高い戦国時代・豊臣時代を中心とするテーマを掲げ、様々な角度から資料に光をあてた。有名な収蔵品だけでなく、近年収蔵されたもの、展示する機会の少なかつたものを積極的に活用した。	
	外国人来館者へのサービス強化	23年度には古文書12点、屏風絵5点、武将の肖像画2点、絵巻物1点、錦絵3点、漆工芸品4点、兜・鎧6点、武具類(刀剣・鉄砲を含む)4点、彫刻1点、その他2点(模型・近代資料)、計40点と多彩な資料の音声ガイド(日本語・英語・中国語・韓国語)のコンテンツを製作し、蓄積は合計140になった。展示頻度の高い資料を優先し、毎年40点のコンテンツ製作を目標に取り組んでいる。	
4 教育普及、学習支援、友の会、ボランティア	重要文化財の公開	櫓・金蔵の公開を毎年秋の季節に実施している。23年度は80周年で6日間実施した。今年度は例年通り3日間公開。	<p>・文化財の保護と公開がバランスよく行われている。今後も公開を継続してほしい。</p> <p>・少ない学芸員数で、年間50回もの講演会を行っていることは驚異的である。講演会・フォーラムへの講師派遣は、博物館の認知度の向上、集客の基礎になっている。また、講演会等を通してのマーケティングは、展覧会の企画の基礎になっているものと思われる。多様な業務の中での講師は負担が大いと思うが、可能な限り出張をしてほしい。なお、出張手続きの簡素化等、学芸員の負担を少しでも軽減できるよう、より一層の館内サポート体制を充実してほしい。</p> <p>・多数、多様な資料提供依頼に迅速に対応していることを評価する。資料提供業務の作業手順を確立し、効率的に処理している点も評価できる。</p>
	学芸員の調査・研究の成果を広く一般に普及する	市民向けの講演会・フォーラム等に大阪城天守閣学芸員を積極的に派遣し、研究成果の普及に努めているが、派遣回数には22年度には計27回、23年度には計49回、24年度は1月25日の時点で既に終了済みのものと年度内の予定をあわせて計50回になっている。大阪市内にとどまらず、全国各地で大阪城天守閣学芸員の講演会・フォーラムが開催され、たいへん大きな成果をあげている。大阪城天守閣学芸員の講演会は集客力の高いことが定評となっており、数百人～千人規模の会場で開催されることも少なくないが、23年の天守閣復興80周年を機にこれまで以上に需要が高まり、26・27年の「大坂の陣400年」に向けてさらにいっそう大阪城への関心が高まりつつあることがよくわかる。	
	収蔵文化財の普及	平成23年度には出版社への掲載や放映などのため、667件2,186点の写真を提供した。件数や点数が最近非常に多くなっているのは、メディアの多様化のほか、対象資料確定に至る学芸員のレファレンス、写真の出納、起案決裁、発送といった一連の業務が、学芸課・総務課の緊密な連携によってスムーズに進められ、これが利用者から高い評価を得ていることが大きな要因といえる。	

5 学校等との利用促進、学校教育支援	学校教育支援	中学生の職場体験学習の受け入れを通じて学校への支援を続けている。23年度は80周年イベントのため未実施だが、今年度は3校実施。	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の職場体験は、歴史や博物館に興味を持たせる絶好のチャンスであり、今後も継続してほしい。また、格差社会が問題となっている中で、歴史や文化に触れる機会に恵まれない子どもたちへのアプローチ等を、可能な範囲で検討することが望まれる。 ・大阪城が持つシンボルとしての機能を体現する企画であり、新しい利用者の開拓という面からは有効だろう。子どもや若者の歴史離れが進んでいるため、写生画の募集に合わせ、歴史への興味を引き出すような工夫を期待したい。 ・少人数の受講生に博物館業務を万遍なく経験させる実習内容は、博物館法施行規則の改正に沿ったものであり、的確な対応が評価できる。また、専門的能力の高い人材育成の観点から、学部生よりも大学院生を優先して引き受けることも検討してほしい。
	写生画展の継続開催	昭和46年度から開催し、今年、41回を迎えるまで継続して開催できた。(23年度は参加15校応募件数912件)	
	次代の博物館施設の担い手となる人材の育成	22年度から、文化庁の「博物館実習ガイドライン」を踏まえ、実習日数をそれまでより一日増やして5日間としている。23年度は7月に5日間、5大学10名の実習生を受け入れた。掛軸・巻物・屏風・工芸品の取り扱いを全ての受講生に習得させるとともに、展示企画や展示解説文の作成、歴史資料の調査、写真撮影、梱包、拓本など、密度の濃い実習を行った。	
6 広報・宣伝、情報公開と発信	情報発信の強化	タイムリーなホームページの更新を行うことで、天守閣の最新の情報を発信し続けている。 アクセス件数 23年度946,469件(1カ月アクセス件数約79,000件)	<ul style="list-style-type: none"> ・HPはよくまとまっており、見やすく、更新もこまめに行われている。英語、ハングル、簡体・繁体中文対応ができていても高く評価できる。図録類の通信販売を行っている点や、土産物紹介ページがあることも評価できる。学芸員による研究成果も積極的に掲載することを要望する(『大阪城天守閣紀要』バックナンバーの目次等)。 ・旅行関係業界等への積極的情報提供が、集客力に繋がっていることを高く評価する。外国人旅行者・旅行者への広報・宣伝にも、一層力を入れてほしい。大阪を代表する観光スポットであることから、他の博物館にはない苦勞も多いことと思うが、引き続き努力してほしい。また一方で、天守閣は単なる観光ポイントではなく、実は第一級の史料を擁する歴史博物館なのだという強いメッセージを出すことも重要である。
	広報・宣伝の強化	るぶ等旅行雑誌、旅ごよみ等交通機関関係、各社の社内報、フリーペーパーなどに情報提供を行い、各地の様々な人々への広報・宣伝に努めている。	
7 地域、市民、関連機関との連携・交流	関連機関との連携	平成22年12月より歴博との共通入場券を発行し、売り上げ枚数も順調に伸ばしている。また、水上バスや海遊館とのセット券の販売についても順調に推移している。	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪歴史博物館との共通入場券の発売については、今後も力を入れてほしい。 ・マラソン等の異質な分野との連携が行われていることを評価する。今後も連携を図り、普段博物館をあまり利用しない層へのPRを続けてほしい。 ・城郭という、施設利用・改修面からは制約の多い条件をプラス面へ転化する一つのポイントであり、今後も積極的な連携・交流を進めてほしい。関係施設との交流は、館運営においても役に立つことが多いと思われる。同種施設のリーダー的存在としても貢献することを期待する。
	地域との連携	大阪城周辺で開催されるイベントとの連携を図っており、23年度は大阪城サマーフェスティバルや大阪マラソンなど5つのイベントと連携した。	
	関係施設との連携・交流	全国城郭管理者協議会へ参画し、大阪市の東部公園事務所や大阪城魅力チーム等とともに各城との連携交流を図っている。また、冊子の編集協力や販売を行っている。今年2月には大阪で役員会を開催する。	
8 施設の整備、維持管理、リスクマネジメント	施設環境の改善	授乳救護室の設置により来館者ニーズに応えた施設環境の充実を図った。また、空調設備の老朽化による機器更新を行い、故障のリスクをなくした。	<ul style="list-style-type: none"> ・授乳救護室の設置等、施設環境が改善されたことを評価する。また、外国人利用者の多い施設として、トイレに手の乾燥機を導入するなど行き届いた配慮をしていることを評価する。日本有数の集客施設であり、現在の建物が開館してから相当の年月が経過しているため、今後も利用者の安全確保と利便性を高めるための施設環境の改善に力を入れてほしい。 ・LED化、空調機の更新が順調に行われている。引き続き努力してほしい。 ・展示環境、資料保存環境の改善が計画的に行われており、評価できる。
	電力消費量の削減	館内展示照明等のLED化や空調機の更新を進めることによって、電力消費量の削減を図った。	
	展示環境の改善	展示照明のLED化により紫外線をなくし展示物の劣化防止を図った。展示ケース・収蔵庫用空調設備の部品交換により故障のリスク低減を図った。また、展示ケースのシールの一部取替によりケースの気密性保持を図った。	
9 運営・マネジメント	館内外の集客を図る	館内外の集客を図るため、春GWのファミリーフェスティバル、夏の七夕まつり、工作教室、秋まつり、迎春イベントの年4回のイベントを計画通り実施した。	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいファン層の開拓に繋がる各種イベントが行われ、広報面でも市内商店街掲示板を利用するなど、着眼点のよい地道な努力が行われている。また、きめ細かな期間限定の開館時間延長が、立地条件と相まって効果的に行われている。職員の勤務体制に無理のない範囲で、今後も継続してほしい。
		上記のイベントを実施するにあたってのポスター展示カ所の確保については、交通機関との連携によるもの、また、大阪市掲示板等関連施設で確保していたが、今年度からは市掲示板がなくなる中で新たに市内商店街の掲示板を確保した。	
		来館者サービスの充実を図りさらに集客を図るため、桜シーズン、GW、夏季、特別展期間中の開館時間の延長を実施した。	
10 α ※各館の特性ができるように、この項目を活用する。	歴史番組・映画・舞台作品などへの制作協力を通じて学芸員の調査・研究の成果を広く普及する	NHKの「歴史秘話ヒストリア」をはじめとする歴史番組の監修は日常的に行なっているが、それに加えて22年度には大阪城西の丸庭園での「平成中村座」公演を実現し、新作「太閤桜」の制作に協力した。23年度には、NHKのBSプレミアム開局記念特別番組「秀吉が愛した桜―醍醐の花見物語」の監修、映画「プリンセス・トトミ」の歴史監修を行なった。大阪城・上田城友好城郭提携1周年を記念して制作したOSKミュージカル「真田幸村～夢・燃ゆる」はたいへん人気を博し、これまでたびたび再演されているが、23年度には和歌山県九度山町や大阪市内で公演が行なわれた。現在は今年年末封切予定の映画「利休にたずねよ」の制作にも協力している。また、24年度には大阪の歴史だけを扱う朝日放送のラジオ番組「osaka歴史ロマン」の立ち上げにも参画し、今や歴史番組の制作にあたって大阪城天守閣学芸員は必要不可欠な存在との評価を得ており、大阪市民だけでなく、全国にその研究成果を普及している。これらの歴史番組などは、多くの日本人の知的欲求に応えるものであるとともに、歴史に関心をもつきっかけにもなっており、たいへん大きな成果をあげている。	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ・ラジオ番組制作への協力は、史実に基づいた歴史知識の普及という意味で、大きな役割を負っている。一見、世俗的な仕事に対しても真摯な対応をし、結果的には大阪城天守閣への信頼を生み出している点で特筆すべき成果であり、この成果を館のHPで紹介することも重要である。また、こうした制作協力も、「天守閣」ではなく、資料館、博物館というイメージが浸透していれば、より明確なアピールになるのではないかと。
	周年事業の効果的実施により、大阪城の歴史や豊臣秀吉への関心を高める	23年度に大阪城天守閣が復興80周年を迎えることから、22年度には「大阪城天守閣復興80周年記念事業実行委員会」を立ち上げ、23年には朝日放送の特別番組「天守閣復興80周年」を制作・放送したほか、多くの企業・市民団体の賛同を得て、ほとんど予算を使わずに80を超える記念事業を実施することができた。また24年には、大阪城・エッゲンベルグ城友好城郭提携3周年を記念して、特別展「日欧のサムライたち」を開催し、エッゲンベルグ城への記念ツアーも実現した。天守閣復興80周年記念事業を通じて、26年には大坂冬の陣から400年、翌27年には大坂夏の陣から400年を迎えることも広く周知したが、現在はこの「大坂の陣400年」に向けて体制づくりを行なっている。併せて、25年には大阪城・長浜城姉妹城提携30周年を迎えるので、長浜城歴史博物館と共同で記念事業の実施を計画している。23年の天守閣復興80周年記念事業は一年間を通じて大阪市内外で多くの事業を実施したので、それぞれの事業の広報活動を通じて大阪城天守閣への関心は確実に高まり、入館者増にもつながるなど非常に具体的成果があらわれたが、それで終わるのではなく、来る「大坂の陣400年」周知の絶好の機会となり、次の周年事業とうまく連絡できたことがいちばん大きな成果だったと考えている。	